## 美波ロケ無事終了！ 映画化される美波町の地方創生とは？

5月下旬から町内全域で行われていた映画「波乗りオフィスへようこそ」の撮影が、6月17日に無事終了しました。

美波町で第1号となるサテライトオフィスが開設されたのは、平成24年5月のこと。そこから6年が経ち、今や18社ものサテライトオフィスが開設され、「地方創生の先進事例」として日本全国はもとより海外からも注目されるようになりました。

日和佐漁協前でのロケの様子。多くの住民の方がエキストラとして協力してくださいました。

モデルとなった株式会社あわえの社屋「初音湯」を使っての撮影。実際の社員も「社員役」として参加しました。

サテライトオフィス開設第1号となったサイファー・テック株式会社、そして地域振興に取り組むため美波町で立ち上げられた株式会社あわえ。両社の代表を務める吉田基晴氏をモデルに、地方創生の軌跡を美波町阿部出身の明石知幸監督が脚本を書き上げ、美波町赤松出身の赤川修也映像監督とともに取り組んだのが今回の映画です。

### ■ 明石知幸監督が語る、映画「波乗りオフィスへようこそ」。

私が師事した故·森田芳光監督は東京都出身だったのですが、自身の作品「家族ゲーム」でその故郷を見事に描き切りました。それを間近で見ていたこともあり、私もいつか同じように自分の故郷を撮りたい、描きたいと思っていたんですね。そんな中で図らずも今回の題材となった、故郷・美波町が推し進めている「美波町の地方創生」という出来事に出会ったのです。

師のように表現できるかという不安ももちろんあり、未だ撮影の前には師の写真に手を合わせ、弱音を吐いたりもしていますが、何より生まれ育った町やここに暮らすみなさんの姿を多くの人に伝えたいという一心で製作を進め、美波町ロケに挑みました。

協力してくださった方々みなさんに自慢していただける作品となるよう、引き続き力を尽くしていきたいと思っています。

### ■ 主演・関口知宏さんが語る、映画「波乗りオフィスへようこそ」。

俳優の仕事はこちらで言う「えっとぶり」で、そんな私になぜ主役を持ってきたのかと正直疑問だらけでした。初めてお会いした時、監督は「(いろんなものに)巻き込まれる人の話だ。」と言うんです。話が進むうちに監督の描く主人公像と自分自身との共通点が本当に多くて、「これは自分がやらなきゃダメだ！」と。本当に勢いみたいなものでお受けして、俳優業から随分と離れてしまっていたことへの不安なんかは知らぬ間にすっ飛んでいましたね。

私はこれまで散々世界を回って、その中で様々な国民性を見てきましたが、今回この役を得て、この町に来て、この物語のキーワードである「ポンコツ」を踏まえて「日本の国民性ってなんだろう」と改めて考えたんですね。

巻き込まれて人のために働くこの主人公をはじめ、地方創生だとか、美波町で起こっているこの動きに巻き込まれているポンコツたちの姿こそが、本来の日本人らしさじゃないかと。この映画の中でポンコツという言葉でくくられている気質こそが日本人の特徴だと、ロケを通して思い至りました。

ご協力、ご助力いただいた美波町のみなさんのためにも必ずヒットさせます。何よりもまず多くの方にこの「美波町の今」を観ていただきたい。この映画を観て「ああ、日本人ってこうだよね。こうありたいよね。」と日本中に感じてほしいですね。

制作：美波ふるさと創造広報チーム